# KSKR パンジーだより

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

## 人として生きる権利がある

パンジーメディアで放送中の「大空へはばたこう～自立への挑戦～」の取材で、「津久井やまゆり園」を出て地域でくらし始めた人、４人に会ってきました。重度訪問介護の制度を利用しながら一人ぐらしをスタートさせたり、グループホームでの生活をはじめたり、くらし方はさまざまです。

ところが、全員に共通していることがあります。笑顔や言葉が増え、積極的になったことです。何を食べる、どこに行くかなどを自分から意思表示するようになった人もいます。津久井やまゆり園では車いすにしばりつけられたり、鍵のかかる部屋に閉じ込められていた人が、仲間と一緒に作業をしていました。

たとえどんなに行動障害があっても、安心できる環境で仲間や信頼できる人がいれば、人はいつでも変わることができる。そんな大切なことを、４人が教えてくれました。

「どんなに障害が重くても地域で普通にくらしたい」は、すべての知的障害がある人たちの願いであり、人として当然の権利です。

しかし、日本では、入所施設からの地域移行は遅々として進んでいません。多くの知的障害者のくらしの場であるグループホームは、大規模化し、虐待も増えています。折しも、国連から日本の地域移行の取り組みに対して強い要請がありました。

「大空へはばたこう」は６回シリーズです。その後一本化し、当事者と一緒に各地で上映会を開く予定です。知的障害のある人のくらしについて考えることは、誰もがくらしやすい社会について考えることに繋がります。

１人でも多くの人に足を運んでほしいと願っています。

（林　淑美）

# 障害者権利条約の対日審査より

## 地域移行の取り組みへの懸念と要望

「日本には桜という花があります。審査員の皆様、ごぞんじでしょうか。日本の公園、小学校、中学校、街路樹、いろいろなところで４月になると満開となります。日本の人はピクニックもいたします。日本の文化、日本の花としての桜です。これを施設に入所している方は楽しんでいると思いますでしょうか。それはどこで楽しんでいるのか。日本の施設というのは、高い塀、鉄の扉で囲まれたものではございません。施設の人々は、昼と夜の生活する場を異なって暮らせると言う政策を 15 年前から積極的に進めてきました。こういう中でこの桜というものを施設の外であるとか、もしくはその中で楽しみ、そしてピクニックをするというような方もいらっしゃいます」

今年８月にジュネーブで行われた障害者権利条約の対日審査において、厚生労働省の担当者は日本の地域移行の取り組みについて、冒頭でこのような回答を行いました。この時、日本から駆けつけた 100 人以上の傍聴団から、不満の声が怒号のように沸き起こりました。

審査を担当した障害者権利委員からは、地域移行が進まない日本の現状について改善が促されました。その中でも、知的障害のあるニュージーランドのロバート・マーチン委員からは「津久井やまゆり園事件は大変な悲劇でした。事件を経てなお、施設で暮らす人が多いことについて考え直したことがあるでしょうか」と日本の姿勢を真摯に問う投げかけがありました。それにも関わらず、こんな政府回答が行われたのです。入所施設から桜を見る人たちが、どのような思いでいるのか。建物や部屋に閉じ込められ、桜さえも見ることが出来ない人がどれほど多いのか、分かっているのでしょうか。

国連で発言するロバート・マーチン

そして、９月９日に出された総括所見では**「（入所施設だけでなく）グループホームも含めた特定の生活環境で生活する義務を負わないようにすること」**と日本の地域移行の取り組みに対して、大きな懸念と強い要請が行われました。

現在、パンジーメディア「きぼうのつばさ」で特集している、入所施設について考えるシリーズ「大空へはばたこう～自立への挑戦～」でも語られていますが、日本の地域移行の現状は、欧米と比べて、数十年も遅れています。国際障害者年（1981 年）に掲げられたノーマライゼーションの理念さえ、政府は本気で実現しようとしていません。障害者権利条約では「社会環境をノーマルにして、障害があっても地域でくらす」ことは当然のことであり、「地域でより良くくらす」生活の質が問われています。入所施設を存続させたまま、地域移行に取り組むことが間違っているのではないでしょうか。施設を廃止する、その出発点に一刻も早く立つべきだと思っています。

（福岡　挙）

# 通過型グループホームに反対する理由

2022 年 10 月 14 日、「通過型グループホーム（ＧＨ）」が閣議決定されてしまいました。

通過型ＧＨは、「一人ぐらしをしたい」人たちの希望を実現するためのＧＨとして位置づけられています。しかし、同時にそこは一人ぐらしをするための訓練の場とも考えられます。

私たちは、「通過型ＧＨ」には反対です。くらしの場は訓練の場ではありません。一人ぐらしをしたいという希望を実現するための支援は大切です。しかし、方法として、通過型ＧＨは不適切だと考えます。そこでは目的のための訓練が優先されます。訓練は知的障害者にとって強い不安やストレスが伴います。自分のペースでくらせなくなるからです。それは、知的障害者の前向きな気持ちを奪い、心に傷を負わせる可能性もあります。

通過型ＧＨには一定の利用期間が設定されています。一人ぐらしが難しい場合は従来のＧＨへの移行を支援すると示されていますが、一人ぐらしが難しいと判断をする基準が明確になっていません。現在すでにＧＨでくらしている人が通過型ＧＨを利用した場合、元のＧＨに戻りたいと思っても、すでに他の人が入居していて戻れない場合があります。また、通過型ＧＨを経て一人ぐらしを始めたけれど、新しい環境での生活がきつくなり、やめたくなった時、どんな支援を受けられるかも明確になっていません。

創思苑のＧＨだけでなく多くのＧＨでは、一人ぐらしをしたい人やパートナーと住みたい人に対して、それが実現できるようにすでに支援を行っています。なのに、なぜ通過型ＧＨが必要なのでしょうか。

創思苑の「ＧＨ当事者会議」で、この新しい制度について１年間話し合ってきました。最初の頃は多くの不安や怒りが語られました。

そして１年を経た今、当事者だけでなく支援者も含めて以下のように考えています。

●当事者の声

・通過型GHはやめてください。訓練を受けるために住む場所を変えられたり、仲間と引きはなされるのは嫌です。

・GH制度を、当事者にもわかりやすい簡単な制度にしてください。そして、当事者の意見を聞かずに制度を変えないでください。

・現在のGHでの暮らしを続けながら、一人暮らしを実現するための支援が受けられるようにしてください。

・GH制度を変える時は、当事者の意見に耳を傾けてください。

本年８月、国連障害者委員会による日本への聞き取りが行われました。９月に発表された総括所見では、「どんな障害があっても、何処で誰とどのように暮らすのかを選べる権利がある」と勧告されました。通過型ＧＨは、知的障害者の権利を侵す可能性があると考えます。　　（林　淑美）

## クラスターと集団生活について

パンジーⅡでは、７月の下旬から８月の上旬にかけて新型コロナによるクラスターが発生し、当事者、職員の約８割が感染しました。パンジーⅡの当事者は半数以上の人がグループホームでくらしています。職員へも感染が広がったため、個々のグループホームでは対応ができなくなりました。しかし職員、当事者ともに重症化のリスクが低く、また、行動障害のある人たちについては、病院のスタッフでは付き添いができないため、病院への入院の対象にはなりませんでした。そこでパンジーⅡの日中の活動を中止して療養の場とし、陽性になった当事者が療養期間の１０日間を過ごすことになりました。

多い時には１７名もの当事者がパンジーⅡに集まりました。これは当事者・職員共に初めてのことでした。僕も泊まり込みで支援を行いましたが、本当に大変でした。全員が風呂に入るために、時間を決めてひたすら順番に入ってもらい、食事は一人ひとりの希望を聞いていると対応できないため、一律になりました。そして、たくさんの人が同じ空間で生活を送るためのルールがどんどん増えて、当事者にも職員にもストレスが溜まっていくのをひしひしと感じました。

１０日間の療養期間が終わったとき、僕は心底ほっとしました。新型コロナで体調が悪化する人が出なかったこと、そして集団生活をやっと終えることができたからです。１０日間という期限があったから、当事者、職員とも何とか頑張れたと感じています。

それぞれのグループホームに帰った当事者は、いつもの自分のくらしを取り戻しました。好きなテレビを見て、音楽を聴く。ゲームをしたり、おしゃべりをし、のんびりご飯を食べて、風呂に入る。そして好きな時間に寝る（翌日、起きられる時間ですが…）。

僕は、このコロナ療養のための集団生活の体験を通して、改めて少人数でくらすグループホームの大切さを感じました。当事者一人ひとりの、かけがえのないくらしが、そこにあります。僕はそれを大切に守っていきたいと強く思います。　　（西野貴善）

## ピープルファースト大会 in 北海道に行ってきました！

大阪・香川のパンジー、総勢165名で、ピープルファースト大会への参加と観光を兼ねて、北海道に行ってきました。前日から札幌入りして、ジンギスカンやみそラーメン、札幌の名物や夜景などを堪能しました。

大会では、懐かしい人にたくさん会えました。現地開催できて本当によかったです！　優生思想の裁判、グループホームの再編問題、津久井やまゆり園に代表される障害者への虐待についての話があり、しっかり問題意識を持っていく大切さを感じました。

初めてピープルファースト大会に参加したパンジーⅤの浅野真岳さん。障害者虐待について、手を挙げました。そして、「虐待をなくすためには、社会に訴える運動していく事が大切だと思う。虐待をする人は、障害者を同じ人間だと思っていないのだ」としっかり意見を言いました。パンジーメディアキャスターの中谷さんは、「毎回見てますよと声かけてもらった。嬉しいな」と笑顔で話していました。来年の大会は大阪です！　　（吉田和美）

# 心の通い合いがうれしくなる

山崎勲さんが２００２年にパンジーに入ってから、２０年が経ちます。

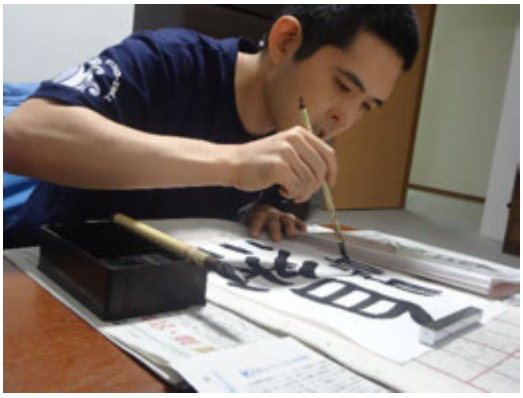
来た当初、山崎さんは突発的に周囲の人の髪の毛をつかんだり、手が出てしまう事が多くありました。通りすがりの女性の髪の毛をつかんで、なかなか手を離すことができず、本人も支援者もどうしていいか途方に暮れたこともありました。

パンジーに来た翌年にはグループホームでくらすことになりましたが、ここでも支援者に手が出たり、大きな声を出して食卓を持ち上げたり、壁を叩いたりといったことが続きました。送迎中の車を足で蹴り、フロントガラスが割れてしまう事もありました。

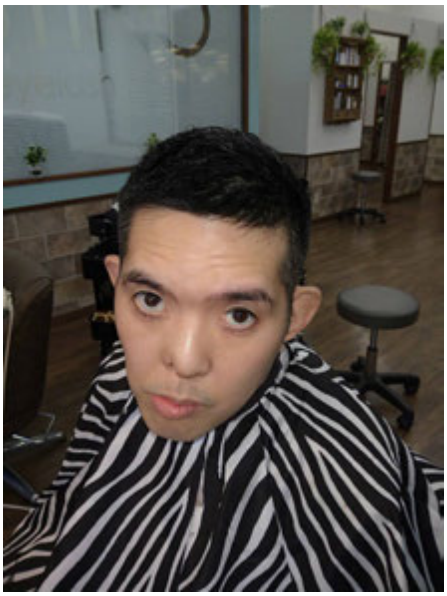
どう支援をしたらいいのか困っていた時、送迎車の運転手さんが「『大丈夫』と声をかけると落ち着くことが多い」と教えてくれました。何かがあると「大丈夫」と声をかけると、山崎さんが少しほっとするのが感じられるようになりました。私たちは、山崎さんの突発的な行動が、不安な気持ちから出ているのだと、少しづつ理解するようになっていきました。

グループホームでは、山崎さんが楽しくくらせるように、部屋には大好きな漫画本をずらりと並べています。習字をするのも山崎さんの日課の一つです。

こうして山崎さんのくらしを考えていく中で、支援者も少しずつ変わっていきました。山崎さんとホームで過ごす事が楽しいと思う人が増えていったのです。一緒に漫画を読んだり、習字をしたりして、同じ空間で過ごすうちに、山崎さんも、支援者を名前で呼ぶようになりました。



今も山崎さんは突発的に大きな声が出たり、手が出ないわけではありません。支援者は緊張することがゼロではないです。しかし、一緒にいることを楽しいと思える時間が増えるにつれ、山崎さんも落ち着いて過ごせることが多くなったと思います。



先日、私は山崎さんと美容院に出掛けました。どんなヘアスタイルにしようかと、あれこれ雑誌を見ていると、山崎さんが“これだ！”と指さしたのは、短めのギバちゃん（俳優の柳葉敏郎さん）風カット。イケメンの美容師さんにかっこよくカットしてもらい、山崎さんは大満足！

今の気持ちが素直に顔に出る。そんな山崎さんだからこそ、心の通い合いが感じられると、本当にうれしくなります。

（見舘史郎）

ドキュメンタリー

# 「大空へはばたこう ～自立への挑戦～」

## ―自分らしく生きるのに、本当に入所施設は必要なのか―

２０２２年秋、パンジーメディア「きぼうのつばさ」で新しい番組が始まりました。「大空へはばたこう～自立への挑戦～」です。（すでにご覧になられた方もいらっしゃると思います）。さまざまな角度から入所施設の存り方を問い、知的障害がある人たちが本当に望んでいるくらしについて、深く考えていく６回シリーズです。

**第１章「入所施設がなぜ作られたのか」(9 月放送)**
入所施設が作られた背景には、知的障害がある人の親の切実な願いなどがありました。しかし最も大きな理由は「社会防衛」だと、同志社大学の鈴木良先生は語ります。その底には障害者に対する社会の差別と偏見による考え方がありました。

**第２章「入所施設の中で何が起きていたのか」（10 月放送）**
多くの入所施設では、内部で何が起こっていたのかを知ることができません。入所施設にいた人が、その体験を語ります。親が亡くなっても葬式に行けなかった人。きびしい規則があり、守らないと殴られた人…。入所施設での体験が、その人の心にどんな影響があるのかを考えます。パンジーにも入所施設を体験した人が２０人います。心の傷が癒えるには、まだまだ時間がかかりそうです。

**第３章「入所施設・世界では…」（11 月放送）**
福祉の先進国において、入所施設は今、どういった状況にあるのでしょうか。たとえばスウェーデンでは……。「入所施設についてのメディアの報道は、社会に大きな影響を及ぼしました。こんなみじめな環境の中でスウェーデン人が暮らしているなんて思いもよらなかったのです。親の会はすぐ行動しました。入所施設を閉じて障害者の生活を改善する運動が始まったのです。そして２０００年には、すべての施設が閉じられました」（スウェーデン支援者へのインタビューより）

**第４章　入所施設から地域へ（仮題）（12 月放送予定）**
２０１６年７月２６日、神奈川県の津久井やまゆり園で、１９人もの知的障害者が元職員に刺されて尊い命を失いました。その津久井やまゆり園から出て地域でくらし始めた人たちを取材しました。入所施設ではできなかったことが、地域生活ではできている。そこから見えてくることを考えます。

**第５章　入所施設に入らない選択（仮題）（１月放送予定）**
**第６章　入所施設のない社会とは（仮題）（２月放送予定）**

第１章を観た人から、いろんな意見が寄せられています。問題意識が高まったとの声が多く、沢山の人に観てもらいたいと思います。

パンジーメディア発信

# ドキュメンタリー映画の上映会＆トークショーのお知らせ

今、いろんな場で、パンジーメディア作品の上映会を行っています。ドキュメンタリーは、観てくださった人に影響を与え、社会を動かす大きな力を生み出します。感想を一部ご紹介します！

## 『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』上映会＆トークショー

★感動、感激を通りこえた初めての世界を拝見させて頂きました。感謝です！！

★久々に素晴らしい映画を観せていただき感動しました。挑戦する心意気に涙し、仲間同士の友情の深さに胸がしめつけられ、人間とはこうでないと！　という思いを新たに私自身の生き方を省みるチャンスをもらいました。

★とても素敵な取り組みでした。色んな可能性がパンジーメディアにあると思います。今後もこのような取り組みを紹介していっていただきたい。

★みなさんの挑戦に勇気をもらいました。やりたいことに挑戦することの大切さ、すごさを感じました。興味深い企画を考え、チャレンジをさせてもらえた利用者は幸せ者なのだと感じました。

★青い空、白い雪、映像の鮮明さに目が離せず、感動して自分もその場にいる感覚になりました。参加されている方の表情がどんどんたくましくなって、私が勇気をもらいました。ありがとうございました。

## 『あいむはっぴい！と叫びたい －クリエイティブハウス「パンジー」の挑戦』

★当事者を主役として作成され、一人ひとりの思いが伝わってきました。グループホームの生い立ちも含めて学ぶことができました。このドキュメンタリーがもっと多くの支援者に届けばと思いました。当事者が観ると、勇気づけられて元気がでると思いました。

★自分も軽度な障害を持っているんですが、支援者・当事者の双方の本音が自分に伝わりました。「介護する方はえらそうにするな」「私たちぬきで物事を決めるな」。とても共感できました。

★私自身、仕事に携わっていく中で、もっともっと真剣に受け止めていきたいと思いました。

これからもこんな上映会をしていただければ、嬉しいです。

上映会を開きたい方、パンジーまでご連絡下さい！（詳しくは次のページにあります）

＜今後の上映会の予定＞　　観覧希望の方は、お電話ください！

### ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの

12 月 2 日（金）13:00～高松市「ふらっと仏生山」

前売り券　800 円、当日券　1000 円、障害者割引　800 円

お問い合わせ　クリエイティブハウス「パンジーＶ」　℡　087-802-5190（担当：平福）

### あいむはっぴい！と叫びたい　クリエイティブハウス「パンジー」の挑戦

12 月 2 日（金）18：00～　和歌山県立情報交流センタービッグユー　　入場料　無料

お問い合わせ　　ころんつながり映画祭　　認定特定非営利活動法人ころん　　℡　0739-33-2278

## 書き損じハガキ、（未使用）切手を送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします
寺野享子様

## パンジーでは、後援会員を募集しています。

賛助会員　１口　1ヵ月　　５００円　　本会員　　１口　1ヵ月　1,０００円
特別会員　１口　1ヵ月　3,０００円　　郵便振替番号 00950-1-300551　ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾊｳｽ「パンジー」

## 上映会を開きませんか？

知的障害を持つ人たちについて、もっと知ってもらうために、社会を変える力にしてくために
パンジーメディアは、出張上映会を行っています。

**『あいむはっぴぃ！と叫びたい　クリエイティブハウス「パンジー」の挑戦』**
**『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』『みんなに伝えたいこと』など多数。**

シンポジウムや人権の研修会、学校の授業、事業所の研修など、パンジーメディアの映画を通して、
語り合いや交流の輪が生まれ、知的障害がある人たちへの理解が広がっていくことと思います。

**費用・内容は、パンジーメディア　072-968-7151 にお問い合わせください。**
**メールでもOKです！**　pansymedia@pansy-net.or.jp（DVD も好評発売中）

## お知らせ

**パンジーメディアブックス　　形式：Kindle 版　価格:300 円**

### 『幸せな生き方は知的障害者から学んだ幸子と美咲と私の物語』 林淑美（著）

私は、知的障害のある子供を育てている人も、自分の人生を楽しんでほしいと思っています。その一歩を踏み出す、小さなきっかけになってほしい。そう思って、この本を書きました。
この本は、私がいつも相談にのっている幸子さんに向けて書いています。同じように知的障害のある子供さんを育てているお母さんたちにも、読んでもらいたいと思っています。
もしかすると、子育てを悩んでいる人にも役に立つかもしれません。

編集人
クリエイティブハウス「パンジー」
東大阪市東鴻池町 2－4－8
TEL:072-963-8818　FAX:072-963-8825

発行人
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町 2-2
東興ビル4階

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価　１００円

# パンジーメディア作品・ラインナップ

どんなに障害が重くても幸せになれる。そのことを、3人の知的障害を持つ人たちが、教えてくれました。

DVD価格（2枚組）2,500円（税込）
上映権付価格　17,600円（税込）

アンナプルナベースキャンプへの6日間。次々とおそいかかる試練に彼らはどう立ち向かうのか。

DVD価格　2,000円（税込）
上映権付価格　17,600円（税込）

「ピープルファーストに出会ってなかったら何も知らんでいた」の語りと共に25年のあゆみをふり返る。

DVD価格　1,500円（税込）
上映権付価格　17,600円（税込）

「自分で決め、普通にくらす」には「障害者も一人の人間」という強い思いがありました。知的障害者が地域でくらす実現に挑んでいる人たちの日々を見つめます。

DVD価格 2,700円（税込）
上映権付価格　17,600円（税込）

知的障害があっても人を好きになっていい、人を愛していい、いっしょにくらしていい。そんな「あたりまえ」を考えます。

DVD価格（2枚組）　2,500円（税込）
上映権付　17,600円（税込）

知的障害者が自分らしく生きるのに本当に入所施設は必要なのでしょうか。親・施設関係者・学者、そして当事者。様々な角度から考えます。

DVD価格　未定
上映権付　未定

個人視聴以外の、学校・図書館・施設での利用をご希望の方は、上映権付のご購入をお願いいたします。

PANSY MEDIA
パンジーメディア
知的障害をもつ人たちの情報発信基地

お申し込みは、パンジーメディアまで
TEL　072-963-7151

新作ドキュメンタリー

出演：山本 博／大川 誠／上田健司
監督：小川道幸
プロデューサー：林 淑美
制作・著作：パンジーメディア
社会福祉法人創思苑
発売・販売元：パンジーメディア
価格：￥2,500 円（税込）
上映権付価格：￥17,600 円（税込）

## DISC 01 ふたりの知的障害者
### ── 地域でくらすことの意味

東大阪の住宅街の中にある公園。ここで、同じ時期に遊んでいた2人の少年がいました。山本博さんと大川誠さん。2人とも重い知的障害をもっていました。13歳の時、運命は2人の人生を大きく分けます。ひとりは入所施設へ、もうひとりは、地域でくらし続けます。2人は全く正反対の人生を歩んだのです。それから25年。2人は、再び巡り合います。そして、同じ道を歩み始めます。東大阪の同じ地域で育った2人の知的障害者。山本博さんと大川誠さんが歩んできた、それぞれの人生を見つめます。

## DISC 02 健司は健司のままでいい
### ── みつけた 自分のいばしょ

重度の自閉症のある上田健司さんは、行動障害もあわせもっています。そのため、グループホームだけでなく、入所施設もことわられました。行き場のなくなった上田さんが、最後にたどり着いたのは「パンジー」でした。パンジーに通いはじめて半年後、グループホームでくらす挑戦をします。どうすれば、重い障害の人が地域でくらすことができるのか。上田さんの自立への挑戦は、職員の考えも大きく変えました。上田さんは、どんなに障害が重くても地域で自分らしくくらせることを伝えてくれます。

## 上映会をしませんか！

この映画を通して、語り合いや交流の輪が生まれ、
知的障害のある人たちへの理解が広まることを願っています。
当事者の講演会とセットでも開催できます。
**くわしくはパンジーメディアまでお問い合わせください。**

**パンジーメディア**
〒578-0911　東大阪市中新開 2-10-16
TEL　072-963-7151
Mail　pansymedia@pansy-net.or.jp
URL.https://www.pansymedia.com